

令和3年度 あきたスマートカレッジ F講座内容報告

県民読書おすすめ講座

世界の文化・社会に関する様々な諸相と現代への関連・影響について、国際的専門分野で活躍する教授陣から学ぶことで、新たな読書の扉を開くことにつながる講座です。

日 時			テ ー マ	講 師
F1	9/4	(土)	13:30～15:00	台湾文学における「日本」 ～台湾人アイデンティティと日本統治時代～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 羽 田 朝 子 氏
F2	10/2	(土)		文学と狂気 ～20世紀のフランスの作家と作品に見る「狂気」の実践について～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 小 倉 拓 也 氏
F3	10/16	(土)		韓国・済州島からみた東アジアの戦後 ～済州島四・三事件と日本のかかわり～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 高 村 竜 平 氏
F4	10/30	(土)		ドイツ・ロマン主義の光と影 ～ゲーテからドイツ統一、ナチズムと東西分断を経て再統一まで～ 秋田大学 教育文化学部 講師 中 村 寿 氏
F5	11/13	(土)		スポーツからみたイギリス文化 ～テニス・ラグビー・サッカーなどを切り口に～ 秋田大学 教育文化学部 特別教授 佐々木 和 貴 氏
F6	11/27	(土)		グリム兄弟の仕事 ～「グリム童話」の時代と読み方いろいろ～ 秋田大学元教授 代表取締役 川 東 雅 樹 氏

※F6は、講師の都合のため、開催を中止しました。

F2 各時代における狂気、文学と狂気における言語の自律性及び言語の物質性、文学における狂気の実践の意義を主な項目として、講座が展開されました。

「狂気」とは、非日常あるいは一般的ではない状態や非合理性をもった存在として認識するものを指すそうです。古代・中世では社会に不可欠とされていた狂気が近代では排除される対象となった変遷や、フランス文学のとりわけ「シュルレアリスム」における言語と狂気のかかわりを20世紀的見地から考察した場合など、これまでにはなかった哲学分野の専門性に富んだ講座となりました。



F3 済州島の概要、済州島四・三事件の概要、四・三事件と日本とのかかわり、四・三事件からみた東アジアの戦後を主な項目として、講座が展開されました。

1948年、戦後の米軍政下で南朝鮮のみの独立選挙が決定されたことに対して、4月3日に共産主義勢力が武装蜂起し、当局による鎮圧行動が住民大虐殺につながった事件であったことの解説を軸に、多角的な立場からの事件を考察されました。隣国でありながら、あまり知られていない史実と日本とのかかわりも深い歴史の連続性について、受講者は学びを深めていました。



F4 現代のドイツにおける文学への認識、ドイツ・ロマン主義の代表作であるゲーテ・著『ファウスト』、ドイツの統一・再統一、ロマン主義の光と影を主な項目として、講座が展開されました。

19世紀、ドイツでは統一国家の建国にあたり、言語の統一が鍵であり、国民文学の存在が不可欠とされたそうです。これが第2次世界大戦後は逆のこととなり、ナチス支配の反省をもとに、ドイツ文化について統一的な見解をもつことは否定され、学校での古典教育も行われなくなったそうです。このことは、受講者にとって、外国における文学の地位や果たす役割の大きさを知る新たな学びの機会となりました。

